

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	870200961		
法人名	有限会社フルハウスカンパニー		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	日立市諏訪町1-20-18 (電話) 0294-28-5833		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年11月28日	評価確定日	平成20年3月25日

【情報提供票より】(平成19年10月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年12月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤	3人, 非常勤12人, 常勤換算7.7人

### (2) 建物概要

建物構造	造り		
	2階建ての	～ 1階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費15,000 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	600 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3	要介護2	0		
要介護3	3	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 82.6歳	最低	66歳	最高	100歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	秦病院、ブレーンピア太田、いばらき診療所たち
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは「利用者がその有する能力に応じて、可能な限り自立した生活を営むことが出来るように支援する。」の理念を掲げ、管理者や職員は理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。  
介護計画書は本人や家族等の意見を聞くとともに、日々の生活の中で気づいた点や意見を職員が取りまとめ、カンファレンスを開いて作成している。  
また、利用者の心身の状況等を介護日誌等に記録するとともに、本人や家族等に相談し、3ヶ月単位で介護計画を見直ししている。  
職員は利用者の生活歴を把握し、家庭菜園や花の手入れなど利用者の役割や楽しみを見つけて支援し、ゆったり家庭的に暮らせるよう場面作りを行っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 今回は初めての受審である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者はサービス評価の意義や目的について職員に伝えている。 また、自己評価を職員とミーティング等で話し合い、作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を2ヶ月に1度開催するとともに、会議の内容を記録している。 会議ではホームの取り組みについて委員と意見交換を行うなど、ホームの理解を得られるよう努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書に苦情相談窓口を明示している。 職員は家族の訪問時に不満や意見を聴取するとともに、意見や要望を会議等で検討し、運営とサービスの向上に反映している。 また、介護相談員を受け入れている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣のコミュニティセンターと交流しているが、地域の人々と交流するまでには至っていないので、利用者が地域の一員として地域の行事や活動に参加できるよう、ホームの広報や啓発を図るなど、働きかけることが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は重要事項説明書に運営方針を明示し、「利用者がその有する能力に応じて、可能な限り、自立した日常生活を営むことが出来るように支援する」という独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念をミーティング等などで話し合い、職員一人ひとりが理解するとともに、理念を共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣のコミュニティセンターと交流しているが、地域の人々と交流するまでには至っていない。	○	利用者が地域の一員として地元の行事や活動に参加できるよう、ホームの広報や啓発を図るなど、働きかけることが望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はサービス評価の意義や目的について職員に伝えている。 また、自己評価を職員とミーティング等で話し合い、作成している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催するとともに、会議の内容を記録している。 会議ではホームの取り組みについて委員と意見交換を行うなど、ホームの理解を得られるよう努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員は市の関係部署を訪問し、担当者と情報交換を行っている。 また、市担当者が訪問することもあり、職員と意見交換を行うなど、連携を図りながら、サービスの向上に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や暮らしぶりを家族の訪問時に具体的に報告している。 また、広報紙を発行し、利用者の暮らしぶりを伝えている。 金銭管理は金銭出納帳に記録し、定期的に家族等に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口を明示している。 職員は家族の訪問時に不満や意見を聴取するとともに、意見や要望を会議等で検討し、運営とサービスの向上に反映している。 また、介護相談員を受け入れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設するディケアと職員交流を図るなど、利用者が馴染みの職員から支援が受けられるよう配慮している。 また、異動や職員が退職した場合には、利用者や家族等に説明している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で毎月介護等に関する研修会を実施している。 また、外部研修に積極的に参加しており、受講後に研修報告書を作成するとともに、ミーティング等で職員間の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城県認知症高齢者グループホーム協議会に加入しているが、市内の同業者と情報交換や相互訪問等で交流するには至っていない。	○	他の事業所と交流や意見交換等ができるよう働きかけるとともに、ホームのサービス向上に繋げる取り組みを提案する。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人や家族等が見学や日帰り体験などにより、ホームの雰囲気馴染めるよう配慮している。 また、本人が安心して利用できるよう、話し合いを行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は家庭菜園や花作りなど利用者の得意なことを教えて貰うなど、お互いに学び支えあう関係を構築している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者から、暮らし方の希望や意向を聴取し、介護記録に記録するとともに、利用者に添ったケアが出来るよう検討、支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書は本人や家族等の意見を聞くとともに、日々の生活の中で気づいた点や意見を職員が取りまとめ、カンファレンスを開いて作成している。 確認した家族等からは認印を貰っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の心身の状況等を介護日誌等に記録するとともに、本人や家族等に相談し、3ヶ月単位で介護計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族等の要望に応じて通院介助や買い物等を支援している。 また、いつでも家族が面会に来ることができるよう、面会時間の制限を無くすなど、状況に応じた柔軟な支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望により、主治医を決めている。 協力医療機関による月2回の往診が受けられるほか、緊急時に適切な医療が受けられるよう体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期に向けた対応や方針を決めるまでには至っていない。	○	重度化や終末期の対応について、職員や家族、関係機関等と話し合いを行い、事業所の方針や支援にむけた体制づくりが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の排泄や入浴介助の際の誘導及び声かけは、誇りやプライバシーを損ねないように十分に配慮している。 また、書類等は事務所の鍵のかかるロッカーに保管するなど、取扱に十分留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの体調に配慮し、天気の良い日は散歩に行くなど、利用者のペースで生活が送れるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の力量を把握し、一緒に材料を切ったり、配膳や下膳の手伝いを促している。 また、職員は利用者を支援しながら、一緒に楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームでは週2回の入浴となっているが、利用者の希望の時間に入浴できるよう支援している。 また、利用者が安心して入浴できるよう福祉用具を準備している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握しており、食事の準備・家庭菜園の手入れや花等の世話など、利用者の役割や楽しみなことに取り組めるよう場面づくりをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花火大会や夕涼み大会の行事やホームの敷地内での散歩などを行っているが、利用者の希望に添った外出支援に取り組むには至っていない。	○	利用者の気分転換や五感を刺激する機会として、日常的に外出する体制づくりが望まれる。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は鍵をかける弊害を理解しており、玄関や居室には施錠していない。 また、外出を察知した場合は声を掛けたり一緒について行くなど、安全面を配慮しながら利用者の自由な暮らしを支えている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練を実施しているが、非常用食料や備品の準備、地域の人々に協力を得られるよう働きかけるには至っていない。	○	避難訓練等を実施する際には、職員ばかりでなく、利用者や地域の方々にも参加や協力を促す働きかけを行うことが望まれる。 また、災害時に備えた水や食料品等を準備することを提案する。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の1日全体の食事・水分摂取量や摂取カロリー等を記録し、把握している。 また、利用者の身体機能に応じた量や刻み食などの調理方法で調理を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂、台所は明るくカーテン等で適度に陽光を調節している。 廊下は天井が高く開放的なほか、天窓を設置し、自然の光が入るよう配慮している。 和室にこたつを置くなど、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。 また、季節の花を活けるなど、季節感を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベット・タンス・椅子・家族の写真、テレビや小物入れなどの馴染の物を持ち込み、落ちついて過ごせる場所になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。